

尾崎さんに医療功労賞

宮崎の理学療法士

選手のサポートに尽力

地域医療に貢献してきた人をたたえる「第49回医療功労賞」の県受賞者に県スポーツ協会理事の理学療法士、尾崎勝博さん(56)(宮崎市)が選ばれた。スポーツでけがをした人らのリハビリを支えるとともに、選手をサポートするトレーナー養成にも尽力した取り組みが評価された。「家族など周りの支えで続けることができた。活動が認められてうれしい」と話している。(山崎祥太)

「周りの支えで続けられた」



医療功労賞に選ばれた尾崎さん

尾崎さんは宮崎市出身。

1988年に理学療法士の資格を取得し、長崎市内の病院での勤務を経て、96年から野崎東病院(宮崎市)で働き、現在は同病院リハビリテーション部部長を務める。働くなかで部活動などで繰り返しけがをして来院する若手アスリートの姿を数多く見てきた。

「けがの原因はスポーツの現場にある」。そう考え、平日夕方や土日に高校などの部活の練習現場を訪れ、けがをした選手のサポートに当たってきた。高齢者向けには自宅に向く訪問リハビリがあり、スポーツ選手にも同様の支援が必要との考えからだった。

一方でこうした選手らを

読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン、アインホールディングス協賛

支えるトレーナーの人材不足も実感。県スポーツ協会が認定する「アスレチックトレーナー」が2012年に制度化される際に制度づくりに尽力し、講習会の開催にもかかわった。県内の認定トレーナーは現在、約70人に増えたという。

さらに、17年に設立された県アスレチックトレーナー協会で代表を務め、中高生の大会や、県内での合宿などへのトレーナー派遣にも尽力。こうしたサポート態勢は県内で合宿する日本

代表チームなどからも評価され、合宿の受け入れ先としての県の魅力向上につながっているという。

「サポートした選手がけがの不安なく、安心してプレーするのを見ることがうれしい」と語る尾崎さん。27年には県内で国民スポーツ大会(現・国民体育大会)、全国障害者スポーツ大会が予定されており、「さらにトレーナーを増やし、安心してスポーツをできる環境づくりに取り組みたい」と話している。